

希望の丘



気仙沼市立九条小学校
校長室だより
令和6年3月21日
最終号
校長 白倉 彩枝子



称賛・励ましは 新しい挑戦の糧！

3月15日、6年生38名が、晴れやかに九条小学校を巣立っていきました。

今年度はコロナ禍も明け、4年ぶりに御来賓をお招きし、たくさんの方々に見守られ励まされての卒業式となりました。卒業証書授与後の「門出の言葉」では、子供たちの感謝の思いや進学への決意などが語られ、合唱「旅立ちの日に」を歌い終わった後には、御来賓の皆様から温かい拍手が送られました。卒業生は、思わぬ拍手に驚きながらも、地域の方々の思いに触れ、家族はもちろん、地域の方々に支えられた小学校生活だったことに、改めて感謝の気持ちを抱いたことでしょう。

また、卒業にあたっては、5年生が中心になって、「6年生を送る会」を実施したり、「卒業式予行練習」では感謝と応援の呼び掛けをしたり、卒業式前日には式場準備や清掃をしたりと卒業生のために一生懸命に働いてくれました。その姿から、九条小学校の伝統のバトンがしっかりと引き継がれたことが伝わってきて、とてもうれしく思いました。

さて、早いもので明日は、令和5年度「修了式」です。

私は、1学期の始業式で「失敗を恐れず挑戦する一年にしよう！」と呼び掛けました。子供たちもそれに応えるように様々なことに挑戦し、たくさんの成長を見せてくれました。それは、明日手渡される通信票「かけはし」にも詳しく書かれています。全校児童236名分の通信票を読みましたが、読むごとに子供たち一人一人の挑戦と努力の姿が目につかび、胸が熱くなりました。子供たちが、安心して存分に挑戦できたということは、応援してくださる家族の皆さんや先生方がいたことと、失敗しても笑ったりからかったりしない学級の温かい雰囲気があったからこそだと思います。

先日、民間ロケット「カイロス」初号機が、民間ロケット初となる人工衛星の軌道投入に挑みましたが、打ち上げ後に爆発するというニュースを見ました。打ち上げ成功を期待していた人たちは、その様子を見て、言葉を失うほどがっかりしていました。しかし、社長の豊田正和氏は、「期待に十分お応えできなかったが、一つ一つの試みにデータや経験があり、新しい挑戦への糧となる。」と語っていました。この言葉は子供たちの挑戦にも通じるものだと思います。失敗を重ねながらも失敗の原因を見出し、次の挑戦に活かしていくことが何よりも大切です。保護者の皆様も、結果だけでなく挑戦の過程を見守り励ましていただくことで、子供たちの**自己肯定感**が育つことが期待できます。明日はぜひ、通信票「かけはし」を御覧になり、子供たちへの称賛と励ましの言葉を掛けていただければ、「新しい挑戦の糧」になること間違いなしです。



☆自己肯定感☆とは…

人と比較するのではなく、そのままの自分を認め尊重し、自己価値を感じる事ができる心の状態を言います。

結びに、校長室だより「希望の丘」も最終号となりました。この一年の保護者の皆様の御理解と御協力に心より感謝申し上げます。お陰様で、学校と家庭・地域と連携しながら、令和5年度の教育活動を推進することができました。新年度も、子供たちが安心して挑戦し希望いっぱいの一年になりますよう、お力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

